

(別紙様式3)

2教指企第1796号
令和3年3月31日

令和2年度WWLコンソーシアム構築支援事業研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	東京都新宿区西新宿2-8-1
管理機関名	東京都教育委員会
代表者名	教育長 藤田 裕司

令和2年度WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業に係る事業完了報告書を、下記により提出します。

記

- 1 事業の実施期間
令和2年4月23日（契約締結日）～令和3年3月31日
- 2 事業拠点校名
学校名 東京都立南多摩中等教育学校
学校長名 永森 比人美
- 3 構想名
Diverse Link Tokyo Edu～社会・世界と協働した高度で創造的な探究
- 4 構想の概要
東京都教育委員会（以下「都教委」という。）が中心となって海外の教育行政機関や国内外の大学・企業等をALネットワークに取り込み、各機関の協力を得ながら、社会・世界と協働した高度かつ創造的な文理融合・探究学習を開発し、生徒に提供する「Diverse Link Tokyo Edu」事業を展開する。取組には、独自の探究カリキュラム・授業の展開や最先端の取組等、国際的に活躍するトップリーダーから多角的な考え方を学ぶ特別講座の開催、生徒と留学生とが多様性の中で協働して学ぶ高校生国際会議等の開催等を含む。各校での教育課程内での取組と、学校の枠を超えた取組との両面を含み、既存の教育手法にはない包括的なアプローチである。開発したメソッドは、ホームページ等を通じて国内外に広く発信・提供し、国の教育改革において、東京が新しい時代を切り拓く人材育成におけるリーディング的役割を担うことを目指す。
- 5 教育課程の特例の活用の有無
教育課程の特例の活用有

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間（令和2（2020）年4月1日～令和3（2021）年3月31日）											
a. 取組体制の整備状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
b. 情報共有体制	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
c. 管理機関の長、拠点校等の長の役割	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
d. 運営指導委員会・検証委員会	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①DLTE 運営指導委員会							○					○
②DLTE 検証委員会							○					○
e. 卒業生の成長の把握	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
f. 留学生支援	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶

業務項目	実施期間（令和2（2020）年4月1日～令和3（2021）年3月31日）											
a. 管理機関の自己負担	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
b. 管理機関による支援	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
c. 事業継続に向けた計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶

業務項目	実施期間（令和2(2020)年4月1日～令和3(2021)年3月31日）											
a. ALネットワーク運営組織の実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協力機関バンクの構築												▶
b. 関係機関による新たな協働事業の開発	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
c. ALネットワークによる進学支援	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
d. 事務局の設置	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
e. 国内外の大学等と連携した国際会議等の準備状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
f. 事業成果の普及	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京ポータルでの情報発信												▶
グローバル論文レポジトリの構築												○
オンデマンド教材の作成												▶
g. ALネットワーク運営のための情報収集・提供	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
オンデマンド教材の配信												▶
h. ALネットワークの基盤となる協定文書	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶

(2) 実績の説明

【実施体制の整備】

a. 取組体制の整備状況

事業の推進に当たり、管理機関の下、国内外の多様な機関との連携を進めている。学校の取組を充実させるため、海外の教育行政機関と「教育に関する覚書」を締結（令和3年3月現在、10か国・地域と締結）している他、本事業に関して特化した連携協定を、4大学（クイーンズランド工科大学、オークランド工科大学、東京大学先端科学技術研究センター、東京外国語大学）、1行政機関（米国大使館）と締結している。

これらの協定に基づき、最先端の研究や企業の取組等を英語で学び、議論する特別講座 Tokyo Leading Academy を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、集合型の特別講座を中止し、代わりに国内外の外部協力機関と連携し、オンデマンド教材を作成・配信した。

b. 情報共有体制

管理機関と拠点校及び共同実施校とで、随時打合せを行いながら事業に取り組んだ。学校の取組事例の共有や開発した教材の共有等について、学校同士の情報共有や学びあいの機会を設けるため、DLTE 運営指導委員会や DLTE 検証委員会で情報共有を図った。

c. 管理機関の長、拠点校等の長の役割

管理機関の長が果たした役割は、コロナ禍においても教育活動を継続し、本事業を東京都のグローバル人材育成施策の目玉事業の一つに位置付けたことである。

拠点校等の長が果たした役割は、前年度構築した校内体制の下、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、事業を着実に推進したことである。

d. 運営指導委員会・検証委員会

下記のとおり運営指導委員会及び検証委員会を実施した。

【第一回運営指導委員会及び検証委員会】

開催日：令和2年10月7日（水）

協議内容：

（運営指導委員会）

- ・管理機関、拠点校、共同実施校の取組内容について
- ・外部協力機関募集について
- ・学校間連携の強化について

（検証委員会）

- ・令和2年度の効果検証について
- ・ディスカッションやプレゼンテーション能力を伸ばさせるための取組について
- ・同世代の間の協働や相互の学び合いの機会を充実させるための取組について
- ・取組内容の効果的な情報発信について

【第二回運営指導委員会及び検証委員会】

開催日：令和3年3月8日（月）

協議内容：

（運営指導委員会）

- ・管理機関、拠点校、共同実施校の令和2年度取組内容及び令和3年度実施計画について

（検証委員会）

- ・管理機関・拠点校・共同実施校に関する評価指標の分析と評価

e. 卒業生の成長の把握

事業の効果検証項目として捕捉するものは別紙のとおり

f. 留学生支援

例年、日本型教育の体験や日本文化、東京の暮らし等に触れることができる外国人留学生の受入事業「東京体験スクール」を計画している。6（2）【実施体制の整備】aに記載した協力関係に基づき、8つの国や地域（カナダ（ブリティッシュ・コロンビア州）、オーストラリア（ニューサウスウェルズ州、南オーストラリア州、クイーンズランド州）、ニュージーランド、タイ、台湾（台北市、高雄市））から生徒が来日し、都立高校にて、在校生の家庭がホストファミリーとなり、受け入れを行っている。受け入れに当たっては、管理機関が全体のマネジメントやホストファミリーとのマッチング等を行っており、令和元年度は留学生に参加を促し、高校生国際会議を開催した。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止したが、令和3年度は来日を予定する国・地域と密に協議をし、感染症対策を講じた上で実施予定である。

【財政等支援】

a. 管理機関の自己負担

管理機関の経費により6（2）【実施体制の整備】aに記載した協力関係を活用し、Tokyo Leading Academyの代替となるオンデマンド教材TokyoGlobalStudioを作成・配信した。

<https://www.tgs.metro.tokyo.lg.jp/intermediate/>

b. 管理機関による支援

管理機関は、事業拠点校におけるベトナム・ハノイ市とのオンライン交流に際し、ハノイ市教育訓練局との連絡調整を行い、事業実施を支援した。

また、管理機関が開発したオンデマンド教材TokyoGlobalStudioには教員用指導資料も含まれており、教員が効果的な授業の導入の仕方、多様な発話促進手法等により授業を活性化する工夫、教材例、CLILによる指導法等をオンデマンドで学べるようにした。

c. 事業継続に向けた計画

管理機関は、生徒が課題研究の成果をまとめ、外部機関から審査・コメントを受けた論文を集約し、ウェブサイト上で公開する「グローバル論文レポジトリ」を構築した。

また、本事業に協力いただける外部機関を募集し、運営指導委員の審査を経て登録する制度である「協力機関バンク」を構築し、募集を開始した。

令和3年度には、事業成果等についてまとめた成果報告書等を作成する予定である。

【ALネットワークの形成】

a. ALネットワーク運営組織の実績

国内外の大学との連携についてはすでに進んでいるが、さらに多様な協力機関との連携を進めていくため、協力機関バンクを新たに構築した。

<http://tokyo-portal-edu.com/bank.html>

b. 関係機関による新たな協働事業の開発

ALネットワークのさらなる拡大に向け、ベトナム・ハノイ市教育訓練局との協議を進め、事業拠点校においてオンライン交流を実施した。

c. ALネットワークによる進学支援

生徒の進路選択の一助となるよう、(2)【財政等支援】a及びbに記載のTokyoGlobalStudioで国内外の大学と連携して動画教材を開発した。

また、事業連携校である「東京グローバル10」事業において、海外大学進学支援講座を開催した。

d. 事務局の設置

ALネットワークを円滑かつ効果的に運営するため、以下の体制で事務局を運営した。

<管理機関体制（事務局）>

職名等	役割分担
指導部国際教育事業担当課長	本事業の運営責任者、AL ネットワークの統括
指導部主任指導主事（国際教育担当）	カリキュラム・アドバイザー 関係機関との連絡調整
指導部主任指導主事（定時制・通信制教育担当）	探究活動を中心とした教育内容等に関する調整 カリキュラム・アドバイザー補助
指導部高等学校教育指導課統括指導主事	教育内容等に関する調整
指導部指導企画課統括指導主事	学校との連絡調整、資料作成等
指導部指導企画課課長代理	経理事務、資料作成・整理等
指導部指導企画課主事	
指導部指導企画課国際交流員（JET-CIR）	海外交流アドバイザー
English Language Fellow（米国大使館）	カリキュラム・アドバイザー補助

※いずれも他事業との兼務。

e. 国内外の大学等と連携した国際会議等の準備状況

令和3年度は、国内外の大学などと連携して下記事業を実施する予定である。

①Tokyo Leading Academy

- ・東京大学先端科学技術研究センターと連携した年5回程度の特別講座シリーズ
- ・都立学校の生徒30～50名を対象
- ・CLILやSTEAM教育のアプローチを参考にプログラム内容を企画
- ・分野横断的な研究からグローバルな社会実装まで行っている研究者と都立学校生が英語で議論し、提言を行う機会を提供
- ・ロボット等先端技術の実験も実施

②高校生研究員プロジェクト

- ・東京大学先端科学技術研究センターと連携して実施
- ・都立学校の生徒10～20名を対象
- ・生徒の課題研究に大学教員等が助言
- ・リモート指導、研究室のインターンシップ等も実施

③グローバル論文レポジトリの運営

- ・生徒が課題研究の成果をまとめ、外部機関から審査・コメントを受けた論文を集約し、ウェブサイト上で公開

④第2回高校生国際会議

- ・東京都教育委員会による留学生受入事業「東京体験スクール」で来日した留学生と都立学校の生徒が様々なテーマに基づき議論する場を提供
- ・生徒が身近なテーマについて英語で議論できるよう、JET-CIRやEnglish Language Fellowが支援する。
- ・留学生、都立学校生合わせて350名程度を想定

⑤Tokyo English Channel

- ・6（2）【実施体制の整備】aに記載した協力関係を活用して、いつでもどこでも生きた英語に触れられる、デジタル英語学習空間を構築
- ・日常生活の場面を通して英語に親しむものから、アートや最先端研究を学ぶものまで多様な動画教材を提供する。
- ・都内と海外の生徒が国内外の大学の講座を受け、スポーツ、文化、SDGs等の様々なテーマについて議論する高校生向け国際シンポジウムを実施予定

f. 事業成果の普及

都教委のグローバル人材育成に関するポータルサイト「東京ポータル」において情報を発信

している。

<http://tokyo-portal-edu.com/index.html>

令和3年度から、グローバル論文レポジトリを稼働し、生徒の優秀な論文をオンライン上で共有する。

また、令和3年度にはTokyo English Channel において、日常生活の場面を通して英語に親しむものから、アートや最先端研究を学ぶ動画教材をオンライン上で提供する。

さらに、管理機関の取りまとめにより最終報告書を作成し、成果を発表する最終報告会を開催して、事業成果を広く発信し、日本国内外の高等学校等に還元する。

g. ALネットワーク運営のための情報収集・提供

本事業に協力いただける外部機関を募集し、運営指導委員の審査を経て登録する制度である「協力機関バンク」を構築し、募集を開始した。

h. ALネットワークの基盤となる協定文書

管理機関は下記の機関と覚書や協定を締結している。

- ・令和元年（2019年）6月25日、クイーンズランド州政府貿易・投資庁
- ・令和元年（2019年）6月27日、クイーンズランド工科大学
- ・令和元年（2019年）8月9日、ニュージーランド オークランド工科大学
- ・令和元年（2019年）9月27日、東京大学先端科学技術研究センター
- ・令和元年（2019年）10月18日、東京外国語大学

その他、（2）【財政等支援】cに記載の協力機関バンクを発足した。

7-1 研究開発の実績（東京都立南多摩中等教育学校）

（1）実施日程

業務項目	実施期間（令和2（2020）年4月1日～令和3（2021）年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
a. テーマ型学習												
SDGs チームの活動												▶
SDGs 講演会											○	
JET によるアメリカ大統領選レクチャー							○					
b. 国内外の大学及び企業等との協働	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①国内外の大学との連携												
東京大学								○				
東京都立大学								○		○		
東京工科大学											○	
東京外国語大学									○			○
デジタルハリウッド大学									○			
電気通信大学												○
東京農工大学											○	○
②グローバル企業・NPO 等との連携												
一般社団法人 GiFT							○					
(株) 日本政策金融公庫							○					

(株)大林組													○
(株)ヤクルト												○	
八王子市未来デザイン室							○						
c. 外国語や文理両方の教科を融合した取組	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①MIE													▶
②英語による発表(探究学習)													▶
③社会×理科コラボ授業講演会											○		
d. 海外研修および海外の学校との連携	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①モンゴル・日馬高校オンライン交流									○				
②ベトナム・ハノイチュウヴァンアン高校オンライン交流													○
e. 文理融合教育	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
データ分析・MIE・地球探究 ・総合的な探究の時間(4年) ・Pensées													▶
f. 目的達成に資する工夫	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①八王子未来プロジェクト									○				
②八王子市 高校生によるまちづくり提案発表会												○	
③日野市 ひのミラ							○		○			○	
h. 高度な学習のための環境整備	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①高校生 SR サミット FOCUS 2020									○				
②全国高校生フォーラム										○			
③生徒研究成果合同発表会												○	
j. 学校独自の取組	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①探究テキストの作成													▶
②教員研修の還元									○				

(2) 実績の説明

a. テーマ型学習

SDGs チーム及びグローバル問題研究会の活動

- ・SDGs 課題に生徒が取り組む
例) 昆虫食プロジェクト
- ・様々な社会的な課題に生徒が取り組む
例) 牛乳パック問題 八王子未来プロジェクト

b. 国内外の大学及び企業等との協働 ①大学との連携

- ・東京都立大学：5年LWP論文指導
- ・東京都立大学：探究学習合同発表会
東京都立大学アドミッションセンター高大連携室主催（本校ほか共催）の「第1回探究学習合同発表会」を開催した。高校生が課外で発表したり、研究者と意見交換したりすることで、より深い学びに繋げることができることを目的としている。新型コロナウイルス感染症への防止策のため、東京都立大学の教室とオンラインで実施した。本校からは5年生の生徒2名がオンラインで参加し、「覚一本「平家物語」における巴の人物像」と「日本の中高生にとって英語発音を難しくしている要因」というタイトルで発表した。発表後には、東京都立大学の先生方から質問やアドバイスを受け、今後、さらに探究を深めていく上での参考になった。
- ・東京外国語大学：WWL グローバル講座「ベトナムの風」
WWL コンソーシアム構築支援事業の一環として、WWL グローバル講座「ベトナムの風」を開催した。ハノイ国家大学で日本語を学び、日本への交換留学、ベトナムでの就職を経て、東京外国語大学大学院博士後期課程を修了し、東京外国語大学オープンアカデミーのベトナム語講座担当者を講師に迎えた。
講演内容はベトナムの基本情報、ベトナム人から見た日本の不思議、日本語の不思議、外国人が日本や世界で学ぶ意義などであった。母語を大切にすること、先入観に捕らわれず理解しようとする姿勢の大切さを学んだ。質疑応答では、外国語学習について、海外で学ぶ上での注意点、日本とベトナムの違い、異文化に接するときの注意点などがあった。
- ・東京農工大学：GIYSE プログラム
- ・東京大学：GSC プログラム
- ・西東京三大学：高校生グローバルスクール
(西東京三大学：東京農工大学、東京外国語大学、電気通信大学)
- ・電気通信大学：UEC スクール
- ・デジタルハリウッド大学：WWL STEAM 教育講座
WWL コンソーシアム構築支援事業の一環である STEAM 教育講座 第1回「ドローン講座」を3～5年生の希望者を対象にして本校体育館で実施した。デジタルハリウッドロボティクスアカデミーより3名の講師を迎え、講義と実習を行った。
講座の冒頭では、現在の社会におけるドローンの活用（空撮・建築点検・農業・物流・エンターテインメント等）とドローンの構造を学んだ。また、先端技術であるドローンにはさまざまなセンサーが搭載されることで、安定して飛行し、高度な作業を実行できることを学んだ。実習では、2種類のドローンの操縦にチャレンジした。体育館内に作られたコースを通過したり、各所に置かれたVRボードでゲームを行った。
まとめでは、インターネットが短期間で日常的なものとなったように、近い未来においてドローンが当たり前の社会になり、その活用を担うのは、現在の中高生だという話があった。生徒のアンケートでは、科学技術への関心、Society 5.0 社会への関心が高まったことが読み取れた。
- ・東京工科大学：WWL STEAM 教育講座
4年生の「総合的な探究の時間」に、WWL STEAM 教育講座 第2回「Society 5.0 に向けて」講演会を実施した。この講演会では、東京工科大学工学部応用化学科教授である江

頭靖幸先生を招へいして、「持続可能（サステイナブル）な Society 5.0 を実現する工学とは」をテーマに講演していただいた。

講演では、Society 2.0（農耕社会）や Society 3.0（工業社会）からの技術やエネルギー変化の歴史を振り返り、Society 5.0 といえども持続可能（サステイナブル）でなければならないという制約の中、無限に発展し続ける社会を実現すること、そのために今までの工学も変わらなければならないということを学んだ。サステイナブル社会を実現する工学と先端技術の役割について学んだ。

b. 国内外の大学及び企業等との協働 ②企業との連携

- ・第1回 Cross the Border 講演会 「探究×ビジネス」（4年生）
総合的な探究の時間に、「探究×ビジネス」をテーマに、株式会社日本政策金融公庫の立本純之氏に講演いただいた。ビジネスの観点から社会を見つめ、課題解決を図るためにどのような視点が必要かを、個人ワークやグループワークを行いながら考えた。ビジネスのプランを考えるワークショップでは、多くの生徒からアイデアが出た。
- ・第2回 Cross the Border 講演会 「地域からの学び」（4年生）
「地域からの学び」をテーマにした講演を実施した。八王子市未来デザイン室の無藤一貴氏が、2040年には親の世代になっている高校生が地域社会の現状と未来について考える意義について講演した。人口減少、少子化、高齢化など将来の日本には解決すべき問題について、高校生が当事者となって考えることの大切さを学んだ。
- ・第3回 Cross the Border 講演会 「グローバルな学び」（4年生）
「グローバルな学び」をテーマにした講演を実施した。一般社団法人 GiFT の鈴木大樹氏を招へいし、自身の海外経験や生き方について講演いただき、広い視野を持つ大切さを学んだ。
- ・ヤクルト研究所：2年キャリアプログラム バイオの研究（オンライン）
- ・大林組：研究室訪問 宇宙エレベーターの仕組み等（オンライン）

c. 外国語や文理両方の教科を融合した取組

JET の活用を通じて、英語の授業で文理融合の学びを实践した他、英語で数学を学ぶ MIE (Mathematics in English) や、探究学習において英語で発表をする機会を設けた。また、初の試みとして、社会と理科が協働した授業の一環として講演会「川がもたらす災いと恵み」を実施した。本講演会は、2年生を対象として、国立環境研究所気候変動適応センター気候変動影響観測・監視研究室の西廣淳室長に講演いただいた。渡良瀬遊水地を共通テーマとして、社会の授業では、足尾鉍毒事件や田中正造の活動など渡良瀬遊水地が誕生したその歴史的な背景を、理科の授業では、人間の活動が生態系に与える影響や、渡良瀬遊水地の生物多様性やその保全方法を学んだうえで実施し、文理融合型授業の新しい形態を示した。また、自身にできることは何かを考えさせることを目的とし、講演では、「洪水は悪いことか？」を切り口に、洪水がもたらすのは水害だけでなく、近隣の土壌を豊かにしたり、攪乱によってそこに住む生物多様性に貢献している一面もあるということに気づかせるとともに、「研究者」という仕事の在り方、人と自然の向き合い方など様々なことについて意見交換をした。

d. 海外研修および海外学校との連携

- ・モンゴル日馬富士高校とのオンライン交流会
グローバル問題研究会（GI 研）とモンゴル日馬富士高校の生徒とのオンライン交流会を実施した。GI 研から4名、モンゴル側から5名の計9名で、日本の文化、日本の高校生の生活、モンゴルの特徴、モンゴルの高校、日本・モンゴル双方で訪問したい場所、将来の学びや留学について意見交換を行った。交流会を通じて、生徒はさらに視野を広げることができた。
- ・モンゴル模擬国連を通して共に学ぶアジア太平洋青少年相互理解推進プログラム
- ・WWL グローバル講座「ベトナムの風」

- ・ハノイ チューヴァンアン高校とのオンライン交流
ベトナムの首都ハノイ市にあるチューヴァンアン高校の生徒と、オンライン交流会を2回実施した。参加者は、チューヴァンアン高校の生徒10名と、本校からはグローバル問題研究会（GI研）のメンバーを中心とした15名の生徒だった。
第1回目は、チューヴァンアン高校の生徒が楽しくベトナムの紹介し、第2回目は、本校生徒が日本の文化や習慣、学校生活等を紹介した。学校やベトナムの旧正月「テト」等の文化に関するプレゼンテーション、寸劇、そしてオンライン参加型クイズなど、充実した内容であった。
- ・JICA 国際協力エッセイコンテスト（前期希望者 4・5年）

e. 文理融合教育

教科の枠にとらわれない学習内容を実践するために、現行の教育課程にはない文理融合型科目や課題解決型学習を行う科目を設置している。（令和2年4月から実施）

対象生徒 3年生(中学校3年生)～6年生(高校3年生)

<内容>

- ・「データ分析」3年生 技術・家庭(1単位)の代わりに設置し、4年生・5年生での探究活動に向け、データ分析の基礎を学んだ。
- ・「地球探究」4年生 従来の「地理A」(2単位)の代わりに設置し、地学の内容も採り入れて自然地理を学習した後、自然と人間生活の関りを中心に、地理Aの学習範囲の中から各自がテーマを決めて、探究活動を行い、その成果を発表した。
- ・「Cross the Border 型探究」4年生 これまで1単位であった「総合的な探究の時間」を2単位に増やし、枠にとらわれない探究活動を進めている。
- ・「MIE(Mathematics in English)」5年生 英語の教材を使い数学を学ぶことによって、論理的な英語表現に慣れることも目的として1単位設置した。TTとして入るJETはCLILを実践した。
- ・「Pensées (パンセ)」6年生 公民科の必修科目「現代社会」と連携して、課題解決型学習を行う教科として1単位設置 ※(別紙)授業報告書参照
- ・WWL STEAM 教育講座① 「ドローン講座」
- ・WWL STEAM 教育講座② 「Society 5.0 社会における工学」

f. 目的達成に資する工夫

- ・八王子市長期ビジョン作成のためのワークショップ
- ・八王子市政策提言発表会
八王子市役所主催「高校生によるまちづくり提案発表会」を、本校がオンライン実施のホスト会場なり、開催した。この提案発表会は、本校と都立八王子北高校、都立八王子東高校、都立翔陽高校の八王子市にある都立高校計4校の生徒が「総合的な探究の時間」の学習の成果を発表するもので、令和2年度より開始した。八王子市の石森孝志市長、八王子市教育委員会の安間英潮教育長の参加の下、各学校とはオンラインで開催した。各校から2件ずつの発表があり、各発表に対して、長期ビジョン策定に向けて八王子市役所の若手職員で構成されたプロジェクトチーム「八王子未来 CAN-VAS」に参加する職員の方々から質疑・コメントがあった。
本校の生徒は、グローバル問題研究会（GI研）の政策提言チームによる「コミュニティの観点から見る八王子市の在り方 ～2040年に向けて～」と、探究チーム ones による「小学生の学習支援×高校生 2040年の八王子を担う世代のために」という2件を発表した。八王子の現状分析、データの活用を踏まえて、2040年に向けて八王子をよりよいものにするための提言を行い、提案発表会の最後には、石森市長と安間教育長から講評を受けた。
- ・八王子未来プロジェクト：八王子東・八王子北・翔陽と連携
都立八王子北高校、都立八王子東高校、都立翔陽高校の4校が連携して、八王子市に政策提言をしたり、2040年の八王子の未来を考えたりする「八王子未来プロジェクト

Students Meeting」をオンラインで開催した。本校のグローバル問題研究会（GI研）メンバーがファシリテーターを務め、「学校紹介」「参加メンバーの自己紹介」の後、「八王子のアルアル」、「八王子のよい所・課題など」の意見交換を行う。話し合いの中では「八王子市内における交通格差」や「八王子自然の魅力」などが提示される。東京都立大学の河西奈保子教授からコメントとアドバイスを受けた。

- ・檜原村 フジの里プロジェクト
- ・高尾ビジターセンター
- ・日野市「ひのミラ」

本校2年生3名と都立日野台高校の生徒と共に、SDGsを軸に高校生視点で必要な取り組みを考え、チャレンジする有志チーム「ひのミラ（持続可能な日野の未来を創る高校生チーム）」として自分たちの活動を立ち上げ、日野市をモデルとして活動している。自分が住む身近な地域と大きな社会課題を結びつけていく取組を行っている。

g. 大学教育の先取り履修

新型コロナウイルス感染症の影響により実施しなかった。

h. 高度な学習のための環境整備

- ・全国高校生SRサミット” FOCUS”（立命館宇治）

11月14日（土）・15日（日）にオンラインで開催された「第3回 全国高校生SR (Social Responsibility) サミット “FOCUS” (Forum on Creating Unified Societies)」に、4・5年生から構成された2チーム（計6名）が参加した。1チーム目は「校内でできるプラスチック削減」を目標に活動しており、ペットボトルごみを減らす方法や、購買でエコバックを活用する人を増やす方法などについて発表した。2チーム目は、「Econsumer (Eco+consumer)」(持続可能な消費行動を広めること)を目標に活動しており、SDGs達成に貢献できる商品のPRや購買での販売を行っていることについて発表した。“FOCUS”では、事前に「学校のプロジェクト紹介動画の作成」、「4日に一度のオンライン講演会への参加」、「他校の学生との事前ミーティング」などを行い、実施当日である11月14・15日には、それぞれのプロジェクトをさらにブラッシュアップし、発表した。アクティブに活動する他校の高校生や、国際的に活躍する社会人の方々から多くの刺激を受け、充実した時間を過ごした。

- ・全国高校生フォーラム（文部科学省）
- ・TOKYOサイエンスフェア研究発表会（都教委）
- ・東京都立大学 探究学習合同発表会
- ・Toyama Science Symposium（戸山高校）

都立戸山高等学校主催「第9回生徒研究成果合同発表会（The 9th Toyama Science Symposium）」で、本校5年生の生徒1名がオンラインで発表した。全国で理数の研究を行っている高校や海外の学校などが幅広く集まり、生徒の研究成果を発表。発表は、4年生からライフワークプロジェクトで取り組んできた内容について、英語で発表し、英語での質疑応答を行う。質疑応答の場面では、英語での内容を理解し、回答を考え、英語で表現。複数の大学の先生からの助言指導も受けることができた。

- ・高校生国際シンポジウム（Glocal Academy）
- ・環境探究フォーラム（環境探究学研究会）

i. 留学生との協働

6（2）【実施体制の整備】fに記載した「東京体験スクール」にて留学生を受入予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

j. 学校独自の取組

①探究テキストの作成

本校の探究活動をまとめてテキスト化した。文部科学省からWWLコンソーシアム構築支

援事業拠点校として指定を受けたことを契機に昨年度から2年がかりで本校独自の探究テキストを作成した。令和3年度から探究活動において使用予定である。

探究テキスト「フィールドワーク活動」

- 地域調査 1年
- モノ語り 2年
- 科学的検証活動 3年
- ライフワークプロジェクト 4・5年

②教員研修の還元（視察・海外等）

ドイツの教育をオンラインで視察し、青少年指導者とのオンライン会議（11月）を実施した。また、校内における還元研修を実施した。

7-2 研究開発の実績（東京都立白鷗高等学校・附属中学校）

(1) 実施日程

業務項目	実施期間（令和2(2020)年4月1日～令和3(2021)年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
a. テーマ型学習												
①ダイバーシティ探究 I・II (HAPiE)												▶
②ダイバーシティカフェ				○					○	○		
b. 国内外の大学及び企業等との協働	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京大学									○			
京都大学							○					
東京農工大学					○						○	
神田外語大学						○						
電気通信大学									○			
c. 外国語や文理両方の教科を融合した取組	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①CLIL												▶
②英語論文												▶
d. 海外研修および海外の学校との連携	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
フランス パリ ラ・フォンテーヌ校 姉妹校連携				○								
オーストラリア交流												○
e. 文理融合教育	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
文理分断からの脱却を意識した教育課程												▶
f. 目的達成に資する工夫	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第2外国語												▶
日本文化概論												▶

h. 高度な学習のための 環境整備	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①高校生SRサミット FOCUS 2020								○				
②全国高校生フォーラム									○			
③AFTER FOCUS 2020											○	

(2) 実績の説明

a. テーマ型学習

日本の伝統・文化理解を基盤に、ダイバーシティ（多様性）を尊重し「競争」と「協働」の両方ができるイノベティブなグローバル人材を育成するため SDGs の 17 のゴールに関連したグローバルな社会課題探究のカリキュラム開発を行った。新たに WWL 科目として「ダイバーシティ探究 I・II (HAPiE I・II)」を設置し、中学で英語エッセイ、高校で Academic Essay として 6 年間の系統的な探究活動を行っている。高校の Academic Essay は授業内に設置する週 2 時間の中で「持続可能な国際都市・東京の在り方」をテーマに課題探究 (SDGs) Academic Essay を作成した。また、視野を広げるための学びの場であるダイバーシティカフェにて、コロナ禍オンライン交流、ミネルバ大学連携、公立中学連携事情、ELPIS(文化庁連携)の交流会を実施した。

b. 国内外の大学及び企業等との協働

イノベティブなグローバル人材育成のため、管理機関である東京都教育委員会および拠点校と連携し、東京大学・京都大学・東京農工大学・神田外語大学・電気通信大学等と連携し生徒に質の高い学びを提供した。

c. 外国語や文理両方の教科を融合した取組

CLIL 学習を全教科で実施し、指導案を作成し全都立学校で実施できるように構築していく予定であったが、コロナ禍で休校措置となり、オンライン学習への移行等で 2020 年度に関しては行えなかったが、CLIL 学習については次年度再構築し行う予定である。CLIL 学習の際には JET を活用し英語が苦手な教員でも TT を行うことにより CLIL 学習を行えるようにした。また、グローバル探究では、英語科の教員に加え JET の教員に添削指導をお願いするなど教員の負担減を行い生徒の英語論文を仕上げた。

d. 海外研修および海外学校との連携

フランスのパリにあるリセ・ジャン・ドゥ・ラ・フォンテーヌ校との短期留学に関してはお互いの国の伝統と文化を理解することに加えて、日本の伝統・文化を発信することを本校生徒がフランスに留学する際の最大の目的としている。今年度の短期留学は中止となったため、日本とフランスの高校生がコロナによって世界がどう変化するかというテーマでの提言をオンラインでの交流で実施した。また、同校とはオリンピック・パラリンピックレガシーに関し、次期開催国として、日本のオリンピック委員会の協力のもと、プレゼンテーションを作成し、日本とフランスの高校生間でのディスカッションを行い、パリ組織委員会の訪問を予定していたが、コロナ禍の中、フランス訪問自体が中止となった。2020 年度の 3 月も訪問はできない状況のため、事前交流に関してはオンラインでの実施を模索中である。オリンピック・パラリンピックに関してはオーストラリアの「Australian Olympic Connect ともだち 2020」で世界 20 か国の高校生と交流を行った。従来はオーストラリアとの短期留学を行っており、先進的に実施している STEAM 教育を現地の高校および大学で学ぶためのプログラムを組んでいたが、本年度は短期留学を中止した。

- e. 文理融合教育
次年度のカリキュラムから高校2年生で行っていた文理選択を廃止し文理分断から脱却を意識したカリキュラム編成を行った。昨年度までのプレゼンテーション・イン・イングリッシュをより探究的な内容とし、Academic Essay を仕上げる本校独自教科 HAPiE をカリキュラム上に位置付けた。
- f. 目的達成に資する工夫
第2外国語を教育課程に配置し、スペイン語・フランス語・ドイツ語・中国語を中学2年生から週2時間の必修授業として実施した。また、日本の伝統・文化学ぶ時間として学校設定科目「日本文化概論」を教育課程に配置し、茶道・華道・書道・囲碁・将棋・生活文化の授業を高校2年生で週2時間授業として実施した。
- g. 大学教育の先取り履修
新型コロナウイルス感染症の影響により実施しなかった。
- h. 高度な学習のための環境整備
各大学フォーラム・国内外の大学との連携・海外との姉妹校連携事業による相互間交流、模擬国連および高校生国際会議・国際フォーラムへの参加を行った。
また、高校生による世界会議やフォーラム等で生徒自らが疑問を持ち、より深い学びへと進んでいけるよう探究活動の体系化を行った。また発信力を育成するためプレゼンテーションやディスカッションを多く取り入れた授業展開や CLIL 授業を行っている。また BYOD を活用し学びのスタイルが変わる授業展開を試行的に行った。2020 年度は高校生国際会議等のオンライン実施を行った。
- i. 留学生との協働
6(2)【実施体制の整備】fに記載した「東京体験スクール」にて留学生を受入予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

8-1 目標の進捗状況, 成果, 評価 (東京都立南多摩中等教育学校)

a. イノベーティブなグローバル人材の進捗状況

令和2年度における生徒の達成状況

- 日本の先端企業の研究に触れることができ、社会のイノベーションの現状を理解することができた。生徒の探究への意欲、自らがイノベーションに関与しようとする意欲を育成することができた。自らの探究を発信するスキルを習得することができた。また、他校生徒との交流により生徒の視野を広げる効果があった。
- 生徒たちは、教科での学びから探究テーマを見出し、どのように研究していくかの道筋を学ぶことができた。研究する楽しさを知ることで探究する意欲を高めることができた。
- 生徒たちは先端的な研究について学び、自己の研究力を高め、他者への発信力・表現力を高めることができた。
- 生徒はSDGsについて自分事としてとらえるマインドセットを醸成した。
- 英語での発信力の意欲の高まり、コミュニケーション能力向上への意識の高まりが図れた。(学力・探究力)
- 他者と協働して社会をよりよくしようとする意欲の向上が図れた。(協働する力・突破力)
- 創造力・アントレプレナーシップの向上、目標実現に向けての行動力の向上が図れた。(協働する力・探究力・突破力)
- 社会的問題解決への意欲向上、グローバル問題への視野の広がりが図れた。(学力・探究力)
- 問題解決能力の向上が図れた。(創造力・表現力の育成)
- 映像作成を通じて企画立案能力・創造力の育成、外国人との交流を通じた視野の広がりが図れた。創造力を育成する手段としての映像作成を教育活動に取り入れていく端緒に就いた。(協働する力・探究力・突破力)
- 英語のよる教科内容の指導により、授業への参加意欲、授業内容理解への意欲の向上、英語から日本語への授業内容再構成による思考力の高まり、英語活用能力の向上が図れた。
- 教科学習と社会的問題との関連性理解力向上、社会的問題への関心の向上、問題を解決しようとする意欲の向上が図れた。
- モンゴルやベトナムの高校生と連携することにより異文化理解への関心・意欲の向上、グローバルな視野の習得、学力・探究力の向上が図れた。
- 異文化理解、英語でのコミュニケーション力の向上が図れた。

令和2年度における教員の取組状況

- 教員の探究活動に対する意識を高め、これまでの探究活動を見直すことができた。グランドデザインと育成すべき力についての再検討をした。イノベーティブなグローバル人材を育成していく意識を醸成できた。
- SDGsを含めて、今後の教育活動の方向性について学び、有識者から本校のWWLコンソーシアム構築支援事業への提言を受けた。教員が現在果たすべき役割、本校の目標についての考え方を教員間で共通理解ができた。
- 教員はオンライン交流を通じ、世界に踏み出す意欲や態度を育成することができた。海外に対して生徒の目を向けることができた。
- 文理分断を超え、多様な学びをすべての生徒に提供する教育課程を編成することができた。Society5.0に生きる生徒たちに必要とされるスキルを身に付けさせる体制を整えることができた。

b. ALネットワークが果たした役割

オンラインを活用した他校生徒との交流を通じて、生徒の視野を広げる効果があった。

c. 短期的・中期的及び長期的に設定した目標の進捗状況等

コロナ禍のなかで、国内及び海外への移動はできなかったが、オンラインを駆使し、9月以降ほぼ全ての項目について計画通り実施することができた。また、国内外の大学やグローバ

ル企業との連携を通して、現実社会や世界の動向に生徒の視野を広げつつ、英語運用能力や探究学習の質を高めることができている。さらに令和2年4月から実施している文理横断型の教科について、検証作業を進め、改善していくことが課題である。

8-2 目標の進捗状況、成果、評価（東京都立白鷗高等学校・附属中学校）

a. イノベーティブなグローバル人材の進捗状況

- 中学3年生で英語エッセイを書き、高校2年生で日本語による探究論文を仕上げる。今年度はその日本語論文を高校3年生全員が学校設定科目 HAPiE で英語論文へと仕上げることができた。自らの探究を世界へ発信するスキルを習得することができた。
- 姉妹校交流や高校生国際会議を通じてグローバルな視点で、世界へ向けて発信したり、世界へ飛び込んでいくことについて、生徒の姿勢は昨年度に比べ肯定的に変容している。
- 海外大学とオンラインで交流することによりグローバルな視点で将来のビジョンを考えることができるようになった。
- 外国語をツールとして活用できる指標として、中学生で英語検定準2級が学年の生徒の93%が取得、高校1・2年でCEFR A2以上が99.5%のレベルに達している。グローバルな視点で世界的諸問題の解決について思考・発信・提言できる人材の育成ができた。
- フランス・オーストラリアの生徒とのオンライン交流によりオリンピック・パラリンピック交流等で幅広いネットワークを構築した。その交流の中で更に世界各国20校の中学生・高校生との交流を行い、日本の伝統・文化を外国語で発信することができた。
- 学校設定教科「日本文化概論」で日本の伝統・文化を学習することにより体験を通して日本の伝統文化の多様性について理解し、発信することができた。
- 全国高校生サミットに参加することにより国内外50校以上の高校生や学生、企業がオンラインで繋がり学びながら自分たちが提案するプロジェクトをブラッシュアップし、より良い社会を作るための提案・提言を行った。その結果、学びを発展的に捉え専門的な知識・技能を身に付けることができた。
- 文化庁と連携し、社会の将来像を描き、そこに至るまでの技術イノベーション環境について、大学・研究機関の研究者等との交流を行い、これからの社会のあり方や高校生としてどのような未来を描いていけるか等、世界を広げて知見を深めることができた。
- 地域と連携し、学年全員が地域の歴史や産業に関する理解を深め、課題を発見し、地域の発展に向けた提言を発見・発信することができた。

b. ALネットワークが果たした役割

国内大学および海外大学、企業、国際機関との高度な学びを提供する仕組みについては構築することができている。NGOとの連携の強化を今後進めていかなければならない。

c. 短期的・中期的及び長期的に設定した目標の進捗状況等

短期的な目標のうち、以下については目標を達成できている。

- ・取組の目的、範囲、要件等の整備
- ・ALネットワークのステークホルダーの具体的な協力内容の整備
- ・「探究学習」カリキュラム開発
- ・各種フォーラム、報告会等の実施

また、短期的な目標のうち、以下については実施しているが機会を増やすなどの必要があると感じる。

- ・教員向けセミナー、研修機会等の提供

中期的な目標に関しては、現在、指導書または教材開発、学びの蓄積等に着手しているが現在進行中である。

長期的な目標でもある「今後はこの取り組みをどのようにして多様な学校に広く提供、普及していくか」については、今年度は都立中高一貫教育校、公立中学校とコンソーシアム

を構築し拡大してきたが、今後はさらにそのネットワークを広げていく必要がある。

9 次年度以降の課題及び改善点

次年度以降もコロナ禍でいかに質の高い学びのコンソーシアムを構築していくか、海外への渡航が規制される中、オンラインをどのように活用していくかが課題である。

WWL事業での取組内容を他の学校へ還元し、質の高い学びの提供を通じたグローバル人材育成に取り組んでいきたい。

【担当者】

担当課	東京都教育庁指導部指導企画課	T E L	03-5320-7772
氏 名	木村恵美子	F A X	03-5388-1733
職 名	課長代理	E-mail	Emiko_1_Kimura@member.metro.tokyo.jp